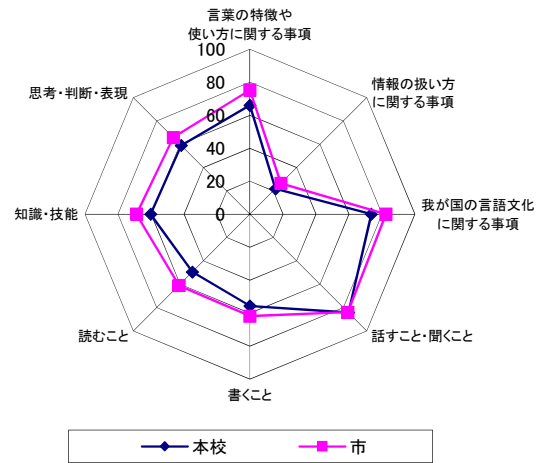


宇都宮市立新田小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.0	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	21.8	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	73.6	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	84.3	83.9	84.2
	書くこと	55.6	61.7	64.5
	読むこと	49.4	60.9	61.0
観点別	知識・技能	60.3	68.8	70.3
	思考・判断・表現	58.9	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

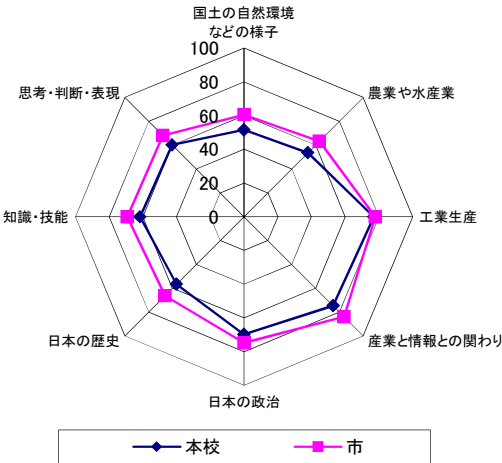
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	・平均正答率は、市より9.3ポイント下回った。 ○「第6学年に配当されている漢字を正しく読む」問題では、正答率が9割以上だった。 ○「三字の熟語の成り立ちについて」の問題では、市の正答率を2.2ポイント上回った。 ●「第5学年に配当されている漢字を正しく書く」問題では、市の平均を18.4～32.7ポイント下回った。 ●「敬語の使い方」の問題では、市の正答率を12.9ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国語科以外の教科においても、ノート指導など文章を書く機会を増やし、書き終えた文章を見直す習慣を身に付けるとともに、習った漢字は意識して使うように指導する。 ・新出漢字の学習をする際には、正しく書き取ることに加えて、漢字の由来や成り立ちについて触れ、漢字の面白さに気付かせ、興味関心をもって学習できるようにする。 ・前年度の復習をAIDリル等で行う。 ・敬語を使って話をすることを学校生活全般を通して低学年から意識させ、使い方を繰り返し指導する。
情報の扱い方 に関する事項	・平均正答率は、市より4.7ポイント下回った。 ●「情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する」問題では市より4.6ポイント下回った。 ●「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く」問題では市より4.8ポイント下回った。	・話の要点を捉え、要約する力を育むために、授業や朝の学習等で簡単な文章を読み取る活動を取り入れていく。 ・調べ学習において、図書資料やデータを活用してまとめられるよう、目的や意図に応じた情報を抜き出し、簡潔な文章を書くようにする。
我が国の言語文化 に関する事項	・平均正答率は、市より8.8ポイント下回った。 ●「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解する」問題では、正答率が7割程度だった。	・漢字や言葉の由来や成り立ちについて触れ、言葉の面白さに気付かせ、興味関心をもって学習できるようにする。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、市の平均正答率より2.2ポイント下回った。 ○意図に応じて話の内容を捉えている問題では、4ポイント上回った。 ○自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える問題では、0.4ポイント上回った。 ●話の内容を捉える問題では、市の平均を2.2ポイント下回った。	・話を聞く姿勢や態度を日々の学級内において指導を行い、まずは話を聞くことについて力を入れていく。 ・国語の授業の中で、簡単なメモを取りながら話を聞く練習を行い、聞き取り問題に慣れる練習、指導を行う。 ・国語の学習だけではなく学級活動等の中で、児童同士がインタビューしたり答えたりする活動を取り入れて、話の内容を聞き取ることができるような指導を行う。
書くこと	・平均正答率は、市より6.1ポイント下回った。 ●「段落の役割について理解し、二段落構成で文章を書く」問題では、13.9ポイント下回った。 ●「予想される反論とそれに対する意見を書く」問題では6.6ポイント下回った。	・段落の役割について意識しながら文章を読み取ったり、文章を書いたりできるよう指導する。 ・反論を予想しながら自分の意見をまとめることを、様々な教科において継続的に指導していく。
読むこと	・平均正答率は、市より11.5ポイント下回った。 ●「文章全体の構成を捉える」問題では、17.5ポイント下回った。 ●「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる」問題では、11.8ポイント下回った。	・段落間の関係について、図にして表したり、読み取りで使うキーワード(事実、考え、疑問、問いと答えなど)や、接続詞に注目したりして、内容を読む指導をする。 ・登場人物の心情について想像しながら読み進める授業を工夫して行う。また、発達段階に応じて、自分の好きな場面や登場人物について、根拠を明確にしながら友達と伝え合うことで、様々な意見に触れながら学習できるようにする。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	51.5	60.5	65.8
	農業や水産業	53.6	63.3	66.0
	工業生産	77.0	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	74.7	83.8	76.6
	日本の政治	69.8	74.9	74.1
	日本の歴史	56.6	66.3	68.3
観点別	知識・技能	61.6	69.3	71.4
	思考・判断・表現	60.3	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

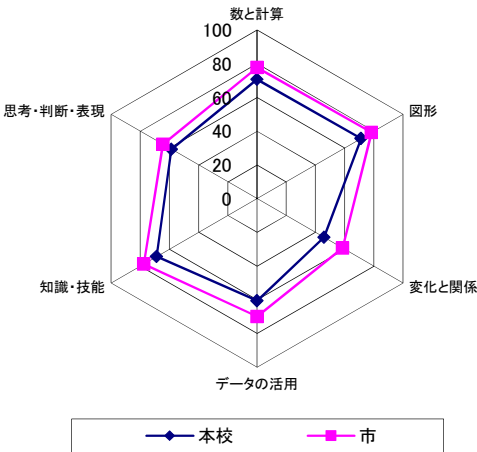
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・平均正答率は、市より9ポイント下回っている。 ●「日本の周辺の海洋名」に関する問題については、市の平均より大きく下回っている。 ●「気候の特色」に関する問題については、市の平均より大きく下回っている。 ●「公害」に関する問題については、市の平均より大きく下回っている。	・普段の授業において、地図帳をすぐ手の届く場所に準備しておき、積極的に活用することができる環境をつくる。 ・ニュースや新聞記事などから話題を提示し、興味関心を高め、理解を深めていく。 ・教師や児童の体験や経験などを取り上げながら授業を展開することで、その土地の様子や気候に対して、より興味をもてるように工夫をする。
農業や水産業	・平均正答率は、市より9.7ポイント下回っている。 ●「食料の自給率」に関する問題については、市の平均より大きく下回っている。 ●「輸入などの外国との関わり」に関する問題については、市の平均より大きく下回っている。	・児童の興味関心を高めるために、スーパーマーケットにおける産地の話題を取り上げるなど、資料の提示の仕方を工夫し、理解を深める。 ・算数の授業と関連付けて、グラフや資料の読み取り方を改めて指導していく。
工業生産	・平均正答率は、市と同程度、参考値より1.3ポイント上回っている。 ○「日本の輸出品・輸入品」に関する問題については、市の平均と同程度である。	・今後も工場見学などを積極的に実施し、児童の興味関心を高めていく。 ・学習した事柄の中から自分でキーワードを考えさせ、単元のまとめを行いながら知識の定着を図っていく。
産業と情報との関わり	・平均正答率は、市より9.1ポイント下回っている。 ●「情報活用の現状」に関する問題については、市の平均より大きく下回っている。	・情報に関連する身近な出来事と結び付けたり、体験的な活動を取り入れたりして、課題意識や判断力を身に付けられるようにする。 ・身近な情報活用に関するクイズを出し合うなど、楽しみながら知識が定着するような活動の工夫を行っていく。
日本の政治	・平均正答率は、市より5.1ポイント下回っている。 ○「基本的人権の尊重」に関する問題については、市の平均をやや上回っている。 ●「租税の役割」に関する問題については、市の平均より大きく下回っている。 ●「議会政治」に関する問題については、市の平均より大きく下回っている。	・図などを利用しながら、用語の意味を確認したり、日常生活に関わる具体例を挙げて説明したりして、知識の定着を図る。 ・児童の身の回りで、政治にかかわるような事柄(法律、教育、税金についてなど)を取り上げ、政治に対してもっと関心をもてるような工夫を行っていく。
日本の歴史	・平均正答率は、市より9.7ポイント下回っている。 ○「鎖国」に関する問題については、市の平均より大きく上回っている。 ●「鎌倉幕府の政治」に関する問題については、市の平均より大きく下回っている。 ●「室町時代の文化」に関する問題については、市の平均を大きく下回っている。	・時代や単元ごとのキーワードを入れながら、自分の言葉で学習のまとめを行う。 ・歴史上の人物や出来事を取り扱う際に、その時代の前後の時間軸を捉えさせることで、つながりを意識させるようにする。 ・映像資料や資料集を使い、児童の興味関心を高める。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.7	77.7	78.6
	図形	71.3	78.4	74.4
	変化と関係	46.0	58.7	53.0
	データの活用	60.5	69.9	57.2
観点別	知識・技能	68.8	77.5	74.0
	思考・判断・表現	58.6	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

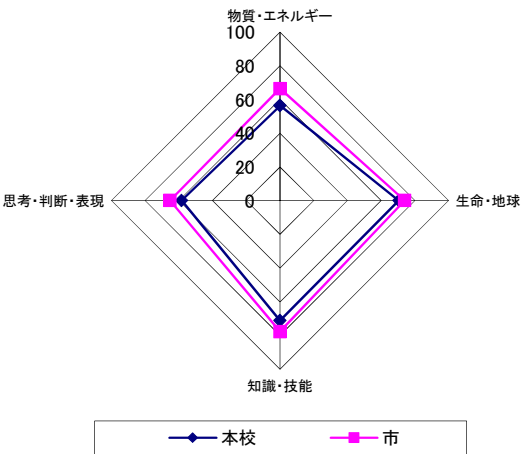
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	- 平均正答率は、市より7ポイント下回った。 ○「分数×分数」や「分数÷分数」の計算は、校内正答率が8割を超えた。特に、「分数÷分数」の計算は、市の正答率を上回った。 ●「比較量や基準量が分数の場合、比較量が何倍になるかを求める式を選ぶ」問題の正答率が市よりも大きく下回った。 ●文字式で、「一方の値から他方の値を求める」問題で、市の正答率より大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の導入や朝の学習を利用して、計算問題の繰り返しの練習をし、今後も基本的な知識の定着を図る。 ・割合を求める問題では、数直線等を用いながら丁寧に説明し、文章の意味を理解できるようにする。 ・図や表を用いながら、文字の式の意味を理解させると共に、計算の仕方の習熟を図る。 ・文章問題の学習では、必ず数直線や図を書いたり読み取ったりする習慣を付けさせ、問題の内容の理解を促す。
図形	- 平均正答率は、市より7.1ポイント下回った。 ●「2つの角が与えられた三角形の外角を求める」問題は、市より22.3ポイント下回った。 ●「図に示された四角形の内角の和の求め方を説明する」問題は、市より17.1ポイント下回った。 ●「ひし形の面積を求める」問題は、市より12.6ポイント下回った。	・三角形の外角の和を求める問題は、基礎をしっかりと再確認して、すでに分かっている数値や不足している数値を書きこむ等、情報を整理しながら考えるよう繰り返し指導する。 ・図形の学習に関しては、個に応じて具体物や半具体物を用いて、体験的に学習を進めていく。また、フラッシュカードや掲示などを工夫し、手軽に確認できるようにすることで、特徴や性質について視覚的に捉えることで知識の定着を図ったり、既習内容の復習を繰り返し行ったりする。
変化と関係	- 平均正答率は、市より12.7ポイント下回った。 ●「表から面積と人数の割合を求め、混み具合考察する」問題の正答率は、7.8%下回った。 ●「速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す」問題の正答率は、35.6%で市より18.7%下回った。 ●「百分率を理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ」問題の正答率は、55.2%で、市より11.7%下回った。	・混み具合の意味や求め方について丁寧に扱い、発展的な問題に取り組む場を設ける。 ・「単位量あたりの大きさ」では、「基準量」や「比較量」の意味について、言葉や図で分かりやすく説明する。 ・立式する際は、用語を書き込んだり、図を用いて説明したりするなど具体的な活動を通して、理解を促す。
データの活用	- どの問題においても市の正答率よりも下回っており、全体の平均は、市平均より9.4ポイント下回った。。 ●「平均から全体の量を推測する」問題の正答率は32.2%であり、市の正答率よりも18.3ポイント下回った。 ●「ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する」問題の正答率は37.9%で市の正答率よりも6.7ポイント下回った。	・様々な表やグラフの読み取り方を理解し、グラフの割合から実際の数を計算するなどの活動に、何度も繰り返し取り組むようにする。 ・それぞれのグラフの意味や活用の仕方を日常生活に即した学習を通して、読み取れるようにしていく。 ・教科書の問題だけでなく、発展問題に取り組ませ、思考力の向上を図る。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.3	66.5	66.3
	生命・地球	70.4	74.0	72.6
観点別	知識・技能	71.1	77.6	78.2
	思考・判断・表現	58.4	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は、市より10.2ポイント以上低い。 ○「実験の結果から水溶液の種類を特定する」問題の正答率は市と同程度である。実際に実験を行ったことにより、基礎的な水溶液の性質が理解できている。 ○「木が燃えたときの、缶の中の各気体の割合の変化」を問う設問では、正答率が市よりやや低いものの85%を上回っている。木が燃えたときの酸素や二酸化炭素等の割合の変化を理解できていた。 ●「ふりこのきまり」の設問では、3問とも正答率が40%台で、市の平均を15ポイント以上下回った。 ●「もののとけ方」の、ミョウバンが水に溶ける量についてグラフから読み取る問題では、正答率が44.8%で、市の平均を15.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・根拠を基に仮説を立て、見通しをもって実験し、結果を踏まえて考察をするという学習の仕方を継続的に指導する。 ・実験の結果をまとめる際に、ポイントとなる事象や考え方を自分の言葉で表現できるようにする。 ・単元の終末で、発展的な問題に取り組ませることで、思考力や表現力を伸ばすようにする。
生命・地球	・平均正答率は、市よりやや低い。 ○「月の形から、太陽がある方位と観察した時刻を指摘する」問題では、正答率が市よりも8.1ポイント上回った。月の形や太陽の位置、そのときの時刻の関係が理解できている。 ○「植物のつくりとはたらきの対照実験の目的」を問う問題では、正答率が市よりも2.6ポイント上回った。 ●「台風の発生と進路について」を問う問題では、正答率が66.7%で、市の平均を11.9ポイント下回った。 ●「だ液によって、でんぷんがどのように変化するかを推測する」問題では、正答率が59.8%で、市の平均を16.3ポイント下回った。	・各単元のキーワードとなる言葉を「理科ワード」としてまとめ、ポイントを押さえられるようにする。 ・実験や観察の目的を明示し、見る視点を明確にした授業を展開する。 ・単元の初めに、既習事項を振り返り、基礎的な知識や用語を確認する。 ・単元の中で繰り返し出てくる言葉に着目して考察するということを継続して指導する。